



哀川選手をレスキューした夜は、お礼の言葉とともに大量のビールが差し入れされた。期待を裏切らない活躍振りで、スペシャルアワード賞を受賞した。



LEG2SS2の途中でコースアウトしたFJ クルーザーを、チームトライアングルのメンバーが鮮やかな手さばきで見事レスキューして見せたのだった。

は草木が生い茂り山を蛇行しながら上り下りする山岳コースで、どこがコースでどこが草むらなのかも判断できないような状況でした。すぐ後ろにいた2号車がワインチで後ろに引き抜くにつれていたのを見ると、クルマが横にスライドしているような状況なので、後ろに引く張つてもどつちにもならないと、すぐに分ったんです。

そこで、後ろではなく上に引く張れば上がると判断したんです。

「伊藤選手が号車のワインチを持って左の山を10mぐらい登って、太い木を見つけてアンカーを取りに行きました。ここは1mぐらいの草が生えていて、それ

を掻き分けるようにして登って行きましたよ。そして、2号車のワインチと滑車を使って翔さんのクルマの頭を引く張り、トライアングル号のワインチで翔さんのリアを引く張り、さらに2号車が動かないようにトライアングル号が後ろからロープで抑えるというアクロバチックなワインチワークで引き上げました。普段からこういう場所を走っているから、どうしたらいいかは瞬時に判断できました。なんだかんだで15分ぐらいで引き上げましたよ。」

さすがトライアングラーの頂点に立つたチーム、これぐらいのことはトライアングルに参戦している人にとっては朝飯前！その日の夜、哀川選手からビールをたくさんおごってもらった3人だった。ちなみに、チームトライアングルはこの時の活躍が評価されてスペシャルアワード賞を受賞した。

前半は抑え気味で走っていたチームトライアングルも、後半になるにつれて徐々にペースを上げていく。そして普段彼らがやっているようなオフロード競技では味わえないようなハイスピードフラットダートを開いて走り、他チームとの追いつ追われつレース展開など、今まで味わうことのなかったクロスカン

今回のラリーでは電装系にトラブルが発生し、現地でナビゲーションを購入して交換したり、原因不明のオーバーヒートが起きたりもしたが、彼らの持ち前の経験と知識で対応。ラリーにトラブルは付きものだが、彼らはそれを乗り越えることすら楽しんでいるように見える。

世界遺産アンコールワットへそして歓喜の瞬間へ

カンボジアでの最終SSを無事に走り



自分たちのクルマは自分たちの手でメンテナンスする、チームトライアングル。無理な運転をしてクルマにダメージを与えてしまうと、それだけ整備に時間がかかり、寝不足になったり疲労がたまったりして、結果的に自分たちへのダメージとなって跳ね返ってくる。だからこそ壊さない走り、日々のメンテは欠かせないのだ。

切り、いよいよゴールゲートへ。ゴールゲートが設置されたのは、世界遺産のアンコールワット前。ラリーカーとともにゴールゲートをくぐった彼らは、完走の証であるフレイッシュャーメダルを首にかけられると、それまでで最高の笑顔を見せてくれた。そこにはラリーを6日間走り切った満足感、ラリーの猛者たちとのSSでの攻防戦を制した充足感など、様々な思いが喜びとなって、全身から溢れていた。

そして3年間、トライアングラーの夢を乗せてアジアの大地を駆け抜けたトライアングル号も、彼ら3人と同じく満足げな表情を呈していたように感じたのは気のせいだろうか。

クロスカントリーラリーは、寝ても覚めてもオフロード走行に、ラリーに、没頭する日々が続く。そしてラリーカーのトラブルにせよ、レスキューにせよ、何かトラブルがあるたびに、ただゴールに向かふことを目的に、ラリーに関わるコンペティターみんなで協力して、それらを乗り越えていく。例えばそれがライバルチームであつてもだ。スタートの時には挨拶を交わす程度だった他チームの人達も、ラリー中に繰り広げられる様々なドラマの中で助け合い、関わり合い、ゴールの時には離れがたい仲間となる。

それは、ゴールゲートをくぐるコンペティターの笑顔を見るたびに感じるのだ。ラリーを共に走った仲間だけしか共有できない絆で結ばれる。ラリーは人生の縮図と誰かが言つた、これこそがラリーの魅力なのだ。

今年のチームトライアングルは、すべてにおいて伊藤選手がコントロールをし、チームを動かしていた。いわばチーム監督的な役割。そして佐々木選手、平賀選手はそれに付いていくことで純粋にラリーを楽しむ様子だった。それも日本にいる時からトライアングルを共に戦い抜いた仲間としてのコミニケーションやチームワークがあつてこそ。まさしくトライアングルで頂点を極めたからこそ、アジアカンボジア参戦だった。でき過ぎなくらい良く走り、良く助け、最高に楽しんだチームトライアングル。その感想を聞いてみると「最高に楽しかった！タイもカンボジアも楽しかったし、だからこそラリーも楽しかった。ぜひ、また参加したいですね」とのこと。彼らもまたラリーの魅力に取りつかれてしまったようだ。

ハジエロを駆つて2000km。タイからカンボジアまで走ったチームトライアングル。今年もまたその名に相応しい活躍振りを見せてくれたのであつた。



バイヨン寺院の南大門をくぐるラリーカー。今年のラリーは遺跡の中の道がリエゾンとなっていた。自分の運転でアンコール遺跡を走れるなんて、とても魅力的！



日本最大のオフロード競技である「トライアングル・チャンピオンシップ」。その頂点を極めたチームには、翌年のアジアクロスカントリーラリー（以下 / アジアンラリー）に参加する権利が与えられる。日本一となった彼らは、世界のクロスカントリーラリーの世界で、どのような活躍を見せてくれるのだろうか。



LIVE! AXCR2011

チームトライアングル無事完走！ 文句なしのスペシャルアワード賞受賞！！



左から伊藤芳郎選手、平賀健選手、佐々木隼人選手。伊藤選手は2004、2008年もトライアングルジャパンファイナルで優勝している。佐々木選手は社会人になって2カ月でジープを購入。ショップ主催の走行会でオフ走行にハマる。平賀選手は現在ホンダ系ディーラーの整備士として活躍中。第30回ホンダ四輪サービス技術コンクールで全国優勝した経歴も持つ技術派。

アジアンラリー（通称AXCR）に参戦しているチームの中で、名だたる猛者たちに混じってラリーを自一杯楽しんでいるチームがいた。それが、チームトライアングルである。

チームトライアングルとは、どんなチームなのか？ その前に、トライアングルの説明しておこう。トライアングルとは、3人が3台のクルマを操り、3つのセクションをクリアしてポイントを争う4駆競技のこと。このトライアングルで全国1位に輝いたチームには「AXCR」招待」が与えられるのだ。4駆競技で全国1位になっただけで海外ラリーにご招待？なんて思う人もいるかもしれないが、今やトライアングルは、北は北海道から南は九州まで全国7地区で行なわれている。参加台数、規模ともに日本最大規模の4駆競技である。その競技の頂点に立つたのが、チームトライアングルなのである。

今年のメンバーは、伊藤芳郎選手、佐々木隼人選手、平賀健選手の3人。伊藤選手は2005年、2009年にもアジアンラリーに参戦していて、今年で3度目



タイヤはヨコハマのジオランダーM/T+。ヌタヌタのマッドから、ハイスピードのダート、そしてオンロードまで、全体的を通じてバランスが良く、グリップやコントロールの良さを感じることができる。

の参戦。タイの事情にも詳しいリーダー的存在だ。佐々木選手と平賀選手は初参戦で、平賀選手はホンダ四輪サービス技術コンクールで全国優勝した経歴を持つ技術派である。

チームトライアングルが駆るのは、ディーゼルのパジェロ。今年で3年目となるマシンである。一度ラリーを走ると数年分の疲労が蓄積されると言われている。事実、去年は燃料の噴射ポンプが壊れ、あわやリタイヤか？というギリギリの場面もあつただけに、ラリーカーは念入りにチェック。万全の体制で、バンコクに送り出したのであつた。

チームワークとテクニックで様々な難局を乗り越切る

8月6日、いよいよラリーがスタート。SS1はバタヤの街中に設置された特設ステージ！ドライバートとナビは、その日ごとに交代していく。

まずはラリー初心者2人にラリーのイロハを教えるべく、ドライバートに平賀選手、ナビゲーターに佐々木選手がついた。そしてサードシートから2人を見守るのが伊藤選手。

平賀選手は「全開で気持ち良く走りました」と言うものの、佐々木選手は

「初めてのナビゲーションで、完全にテンパつてしまい、コマ地図を見ていたけどロストしてしまいました」とのこと。しかし、そこはチームワークのチームトライアングル。伊藤選手がサードシートから「天の声」をかけつつ辛うじてコース無くゴール。翌日から本格的なSSに備え、まずレース初日は軽く腕慣らしといったところだつた。

8月7日、コース前半はリアルジャングル。滑りやすい路面にタイヤが取られるステージ。今年、初めてのアジアンラリー参戦を果たした哀川翔選手が運転するFJクルーザーが、ジャングルの中で崖から滑り落ちコースアウト。「下手したら30分は滑り落ちていたかもしれない」という状況の中、辛うじて木に引っかかつて留まっていた。

そこで後続から走ってきたのが、チームトライアングル。ここぞとばかりにレスキュー用品を持ってクルマから飛び出した。レスキューに関しては、チームトライアングルにかなう人はいないであろう。

その時の状況を平賀選手に聞いてみた。

「先頭を走る1号車の哀川選手が、右カーブの右側に落ちていました。コース



アドベンチャークラスで参戦している日本人たちに見送られてLEGがスタート！「彼らの応援はとても心強かったです」。



ラリーがスタートするところを応援するアドベンチャークラス一行。ラリーの盛り上げ隊です。



時にはハードなコースを走ることも。移動の基本はコンボイです。



食事は地元の食堂で、地元の人と同じものを。こんな体験なかなかできませんよ！



ラリーカーがコースを走っていく、すぐそばで観戦できるのもアドベンチャークラスならでは！

しかも！なんだかデイスカバリーの調子が悪い…。なんとSS1をスタートしたところでクルマが走らなくなるといふトラブル。いや、走らなくはないけど、やっと走っている状態。なんとか修理をして走れるようにはなりましたが、その後もトラブル続き。そのたびに修理、修理で、本当にカンボジアまで走れるの？と心配…。でも、ここがまた楽しいんやね」とは参加メンバーの竹野さんの言葉。なんていう前向き発言！これで、ラリーですね

さて、今年のアドベンチャークラスがちょっと違つと思わせてくれたのは、本格的なSSが始まったところのこと。SSをスタートしたラリーカーを見送った後、コンボイでSSに入り、みんなでノンビリと走行かと思いきや、先頭のナビゲーターが飛ばす飛ばす！その走りに付いていくためには、もうアクセル踏みっ放し状態なのです(ちよつと大げさ)。まさか、こんなにアグレッシブな走りができるなんて！と、その感想を聞いてみました。

「とっても楽しい！コンペティターと同じコースを、こんな風に走れるとは思っていません！」

SS2の前半を走り終えた一行は、タイの食堂で昼食を取つてからラリーカーの観戦ポイントへ。目の前を、砂埃を上げたラリーカーが走り去っていきます。こんな風にラリーカーが走っている様子を間近で見られるのは、アドベンチャークラスならでは！

みんなで作り上げたアドベンチャークラス

また途中のSSでは、コンボイ走行ではなく、1台1台コマ図を読んでの走行も行われました。実はこれ、参加メンバー



これがラリーだと感じる事ができたし コマ図の面白さも知ったよ

から提案があり、急ぎよ実現したもの。これ以上、ラリーの雰囲気味わえるものはないでしょう。コンペティションが使用するSSをコマ図を見ながら、自分たちだけの力で走っていくのですから。自分たちの手で作り上げる、まさにアドベンチャー。全日程を終える頃には、故障続きのデイスカバリーには「タイ蔵」ストラーダには「タイ子」というあだ名が付き「できれば日本に連れて帰りたい」と思えるほどに。でも故障に泣かされたんじゃないの？と聞くと「故障の時は笑うしかなかったけど、直った



ストラーダでタイからカンボジアまで走ったガレージモンチ青空の会の3人。来年はコンペティターとして参加！



時は嬉しくて泣いてました。実はこのタイ蔵、カンボジアで力尽きようとしていました。しかし、地元民が協力してくれて直してくれたことも。その時はアドベンチャークラス全員で拍手して、タイ蔵の復活の喜びを分かち合つたのでした。

ゴールゲートをくぐった瞬間のアドベンチャークラス参加者の笑顔は、コンペティターに負けないほど輝いていました。彼らもラリーを相当楽しんだ模様。

「本当にすべてがアドベンチャーでした。こんなに刺激的で充実した休みは初めて！この面白さは参加してみないと分りません。ぜひこの面白さを大勢の人に味わってもらいたいですね。」

さてさて、今回のアドベンチャークラスに参加した面々の中から、来年度コンペティターで参加する計画の話が持ち上がっている様子。どうやら、すっかりラリーの魅力に取り付けられてしまったようです。



普通の旅行では行けないようなタイの田舎を自分の運転で走ったり、地元の人しかいないような食堂でご飯を食べたり、普通では見られないような景色を見ることができる…。そんな旅行以上の部分と、コンペティターと同じ空気を吸ってラリーの雰囲気を感じ競技区間の一部を走ったり、スタートゲートやゴールゲートをくぐったりできるという競技未満の部分。それらを味わえるのがアドベンチャークラス。これも一つのラリーなのです。

「旅行以上競技未満」 ラリーを体験できるのがアドベンチャークラス



アジアンラリーの参加方法は一つではありません

アジアンラリーに去年新設されたスポートクラス。今年は名前を変えて、アドベンチャークラスとして実施されました。このアドベンチャークラスは、言わばアジアンラリーの体験クラス。アジアンラリーに興味があつても、ラリーカーの準備や費用のことを考えると、そう簡単に参加できるものではありません。でも、このクラスならレンタル車両が用意され、ラリーのコンペティターと同じホテルに泊まり、同じ日程で移動し



アドベンチャークラスの参加者は20名以上！国籍も日本、韓国、マレーシア、タイの4カ国。友達、彼氏、旦那さんの応援や、来年コンペティターとして参戦する下見として、大勢のチャレンジャーたちが集まりました。

一部ですがSSも走れるだけでなく、スタートゲートやゴールゲートもくぐるというもの。しかも、タイ人のナビゲーターがいるので、いざというときも安心なのです。

また、全日程の参加ができなくても、前半だけ、後半だけの参加というアレンジも可能なので、休暇が取りにくい人でも参加しやすいのです。

さて、今回のアドベンチャークラスで、日本人でスタートからゴールまでの全日程に参加したメンバーは7人。トライアングルジャバファイナルのアンダー71クラスで優勝した副賞として招待された「ガレージモンチ青空の会」の3人と、その仲間の3人。そして「ラリーってどんなだろう？」と興味を持って参加した1人の計7人です。

**楽しむために来ている
トラブルも楽しまない！**

アドベンチャークラスの日本人チームに用意されたのは、ストラーダとデイスカバリー。さっそくステッカーを貼つて、クルマの準備。アドベンチャークラスのクルマもコンペティターと同じようにゼッケンを張つたら、ラリー気分も盛り上がりつつもんですよ！



アドベンチャークラスご招待で参加した「ガレージモンチ青空の会」の3人。ストラーダにゼッケンを貼れば、ラリー気分も盛り上がりやす！